

第 6 回川崎市史市制 100 周年記念版編集懇談会 会議録（摘録）

1 日 時 令和 7 年 9 月 24 日（水）午後 7 時～午後 8 時半

2 場 所 川崎市総合自治会館 大会議室 2

3 出席者

- (1) 委員 阿久津委員（オンライン参加）、大城委員、落合委員、嶋田委員、鈴木（ひ）委員、鈴木（勇）委員、反町委員、高田委員、中村委員、福森委員、望月委員
- (2) 事務局 総務企画局コンプライアンス推進・行政情報管理部：大村部長
総務企画局公文書館：相原館長、堀切担当係長
TOPPAN 株式会社：浅井、鶴岡、吉村、中村
株式会社トップノック：片岡
市史だよりライター：早川
株式会社アーク・コミュニケーションズ：渡部、佐藤

4 次 第 (1) 開会／趣旨説明

- (2) 本のデザインの考え方について (2)
(3) 書名の検討について
(4) 総括／次回案内

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者 なし

（次第一） 開会／趣旨説明

相原館長

本日も大変お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。
前回は、7月17日に開催しまして、だいぶ時間がたってしまったのですけれども、
この間、7月に子ども記者16名に参加いただきまして、ワークショップを開いて、
川崎区の殿町小学校海苔資料室と宮前区の影向寺を取材しまして、8月1日に福田市
長への報告会を開きました。TOPPANさんをはじめ、運営の方々には円滑に実施い

ただいまして、子どもたちも大変喜んでもらい、「良い会だった」という感想をいただいています。非常に良いワークショップになりました。ここにご報告させていただきます。

今タイミングがあまり良くないので、ホームページに掲出できていなかったりするのですが、本市ホームページにも掲載していきますので、ぜひご覧いただければと思います。

前回もお話ししたところですが、書名ですとか、紙面や表紙のデザインですとか、人物取材の結果、編さんにあたってのテーマが目白押しとなってきております。

今後も委員の皆さまのご意見を頂戴しながら進めてまいりますので、本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

では、堀切の方から事務連絡をさせていただきます。

事務局（堀切）

本日、お手元の「ししる」特別号 vol.2 を配らせていただきました。vol.1 は 4 月に発行させていただいて、はやくも半年が過ぎ去ったところですけれども、先ほど館長からもお話しした通り、今回は右面でワークショップを取り上げています。

小学生が記者に扮してもらい市内 2 か所を取材したということと、市長に報告をしましたという内容で発行する予定です。

お手元の特別号 vol.2 ですが、市長のお名前とお写真が載っており、この後、市長選挙が開催されることから、公職選挙法の規制もございまして、印刷したのは良いけれども、配布ができません。選挙後の 10 月 27 日以降に、市内各施設で配布させていただくとともに、今回も委員さまにご協力いただければと考えておりますので、近づきましたら、お声がけをさせていただこうと考えているところです。

差し当たり、もう 1 つ（の連絡事項ですね）、前々回で「わた史」について取り上げさせていただきまして、長らく空いているのですけれども、現状、追加で候補をいただきまして、各区に 1 名ずつというような形で、取りまとめをしたところですが、その形式で進めていくと、テーマごとに、なるべく各区で重ならないような選定にしようとしますと、実は行き詰ったところがありまして、現在は、少し切り口をえて、各区に 1 人ずつではなくて、テーマごとで何名ずつというような形で、選定の仕方を見直させていただき、テーマがあまり重ならずに、皆さんに取材が行き渡るような形で再度取りまとめさせていただいているところです。まとめ次第、もちろんご報告をさせていただく予定でございます。

最後にもう 1 件、本日ご出席の大城委員から、こちらのチラシをお手元にお渡しし

ていると思いますが、10月11日、12日に、市役所1階の半屋内のアトリウムで「このまちミニカワサキ」を開催されるということで、昨年度は橘公園で開催されたところですが、今回は市役所内で、しかも、市長選挙に重なっているというところで、なにか運命的なを感じたのですけれども、補足として大城委員からもご説明いただけますと助かります。

大城委員

川崎市内の小学校・中学校にチラシが配れなくなっていて、集客がすごく苦戦しているのです。参加したら絶対楽しい企画なので、近くに小学生とか中学生がいましたら、ご協力いただけますと幸いです。

裏面を見ていただくと、大人も見学するガイドツアーがあります。

高校生が観光大使になります。皆さまを案内してくれることになりますので、ぜひお越しください。川崎市議会の跡地のところ（編集注 市役所広場）ではおとなの「マルシェ」（編集注 ミニカワサキ×midori-ba マルシェ）もあるので、そこに参加しても楽しいです。

中村委員

この締め切り日を過ぎていますけれど、まだ事前の申し込みはできますか。

大城委員

申込みはできます。あと、当日来ても大丈夫です。参加費は事前に申し込むと安いです。

中村委員

わかりました。

事務局（堀切）

最後に、今回も会議録を作成いたしますので、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。事務局からは以上です。片岡さん、引き続きお願ひいたします。

（編集注 意見交換の参考資料として、副読本『かわさき 2024』、新修福岡市史シリーズ1～3を委員席の周辺に配置）

（次第一2） 本のデザインの考え方について（2）

事務局（片岡）

ありがとうございます。そうしましたら、早速本題に入っていければと思います。

まずは、前回、皆さまから冊子自体へのご意見やアイデアをいただいたことを受け修正させていただきましたので、そういったところを踏まえあらためて皆さまからご意見を頂戴させていただければと思います。

そうしましたら、まず、修正後の考え方について説明させていただきますので、浅井さん、よろしくお願ひします。

事務局（浅井）

今、Zoomで画面を共有しつつ投影している状況になります。

今日の議題ですが、まず、「本のデザインの考え方について」の2回目です。

これまで、市民の意見を取り入れて、本の構成という目次を決定してまいりました。この「本のデザインの考え方について」は、こちらの編集懇談会の場でも、「こういう雰囲気やティストを持ったものが良いじゃないか」、「こういう見せ方が良いじゃないか」などのご意見をいただきて、それを踏まえています。

また、アンケートを令和6年に市民に広く催事会場で行いました中からも、「どんな話題なら楽しい・面白いと思いますか」という問い合わせに対して、「漫画が載っていると良い」とか、「文字が多くないものが良い」とか、見せ方に関するご意見もいただきました。

これらの意見やアイデアについて、構成案も踏まえながら、本のデザインを考えてきました。それが第5回編集懇談会（の議題）だったところです。

今回、「本のデザインの考え方について」は、構成案の中で項目が1から9まであるうちの1、2、3、4、5、6、8について具体的なページ案としてお示ししています。

今日の議題として、第5回編集懇談会でいただいた意見に沿って、修正してまいりましたので、そちらが前回の議論を踏まえ、より良いデザインになっているかどうかということを確認いただいたり、新たなご指摘をいただいたりして、これで「いよいよ、この中身を作っていきましょう」という懇談会にできればと思っております。

次ページ以降がそのデザインの具体的な説明になっております。

今、資料を見ながら説明しますけれども、実物大の紙面のサイズにしたもの（ページ案）をお配りしていますので、見た感じ、手に取った感じはそちらで確認しつつ、資料もご覧ください。

まずは、1番目、最初の構成案になります。「めくってわかる 川崎市の100年」というのは、透明のフィルムページを活用して、本をパラパラめくったりして、地域の変遷ですとか、鉄道網の充実などを見せるページです。こちらについて、前回は特に大きなご意見をいただかなかったので、従前のもの（変更無し）となっております。

次が2番目の「かわさきの定点観測」に対するページですけれども、こちらは7区の歴史を場所ごとに写真の比較で振り返る企画（コンテンツ）になっておりまして、（あらためて資料の見方を説明しますと）青い吹き出しが、元からの編集の方針や、

考え方を説明したものです。

赤い吹き出しが、前回のご意見を踏まえた変更や、改善をしたところになっておりまして、(2番目のコンテンツの)改善点としては、各区のロゴを載せるのに「そのシンボルマークの意味を添えてはどうか」というご意見をいただいたので、それを追加しています。

また、前回「少し字が小さすぎるのではないか」というご意見をいただいたので、これは全面的に見直しまして、キャプション、本文、地名の豆知識など、文字を一回り大きくいたしました。

次はこちらの本で一番ページを多く割くテーマになります。「川崎テーマ史」のところになります。こちらはいろいろな、音楽だったり、漫画だったり、アートだったり、街づくりやものづくりなど、色々なテーマで川崎市の歴史を紐解くページですが、改善点としましては、パートの情報、「自分がどのパートを読んでいるのか、マルチコンテンツの本なので、分かりにくくなるのでは」というご指摘をいただいたので、タブ上に目印のようなものを設けさせていただいております。現状こちら(ページの右上のところ)に入れているのですが、本の前の方なのか、後の方なのかがぱっと目で分かるように、デジタルブックになった時にもわかりやすいものであるよう、更に改修の予定です。

このテーマ史は、たくさんのテーマが、どんどん連なっていくので、テーマの切り替わりの時には、帯が縦に入って、色が変わるようにになっています。こちらは従前のものです。

次が、この川崎の歴史を語ってもらう方をご紹介する「人からわかる川崎の歴史(仮)」のページです。こちらが一番文字の多いページになっております。先ほどお伝えしたように、文字サイズを大きくするとともに、文字のフォントについても見直しをいたしました。

今お手元にあるものは、現状の主要なフォントは「A1ゴシック」という可読性とデザイン性、この本から醸し出したい「親しみやすさ」とか「温かみを感じるようなフォントと選んで、デザインや紙面を作つてまいりましたが、本文部分、特によく読む小さな文字については、より可読性を重視し、UDフォント、ユニバーサルデザインの考えに基づいて作られたフォントを使用するように、今お配りしているものから、更に変更を加える予定です。

ユニバーサルデザインフォントは川崎市の広報紙や広報の冊子でも使われているものですので、この本もそれに準じるようにするという考え方です。

次が「激狭テーマ史」のところです。前回お示ししたところでは、市民が考えたユニーク、面白いということを全面的に推したかったため、文字も色文字を使ったりしていたのですが、「こちらはちょっと読みづらいのではないか」というご指摘をいただきましたので、やはり本文の文字には色文字は使わず、黒色で統一をしつつ、ページの雰囲気としては楽しいものが継続できるようにしています。

次が「地図で感じる歩きたくなる川崎史」です。地図を見ながら、街歩きをして、歴史スポットを実際に体感してほしいという企画のページになります。こちらについても、載せたい話題が多かったが故に、1つひとつの枠が小さくなりすぎていたのをご指摘いただいたことから、少し掲載数を落として、1つひとつの写真が小さくなりすぎないように配慮いたしました。こちらはまだあまり街歩きっぽい地図にはなっていないため、今後更に改修の予定です。

こちらは大きな変更はしておりませんが、コンテンツで全部を小さい枠で載せるのではなくて、見てほしいところには絵を入れて大きく示したり、少しコラム的に文字を増やしたりという工夫をしようと考えております。前回いただいた「二ヶ領が載つてない部分」ですか、「一部は暗渠になっている」というところも載せる予定であります。

最後が「川崎の年表」です。年表のところです。こちらの考え方やデザインについて、大きな変更はしておりませんが、今お示ししているように、書き込み欄があったり、あと本文とよくリンクして、興味のあるものを見つけたら本文にて詳しく読める。また本文の方からも年表に行けるという工夫をしております。

最後のスライドの「本全体のカラーリング方針」ですね。今見ていただくと、構成ごとにテーマカラーというのが設定されていて、結構色とりどりな本になっているのですけれども、「そもそもこの色とりどりはどこから来たのか」というご質問をいただいたので、こちらが編集としての考え方をお示しするものになります。全体テーマとしては、やはり「川崎って、いろんな面白いところがあって、1つの色では語りきれない」というところを伝えたかったため、全体テーマとして「カワサキをいろどる、さまざまな色」ということにしております。

投影になると、だんだん印刷の色とかけ離れてくるので、名称とずれてしまうのですが、一応デザイナーとしては、常盤色という濃い緑色からと、色々な川崎にまつわる綺麗な色を選んできて、このような考え方で作りましたという説明になっております。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。今回は前回に続いてデザインをご覧いただくというところもありますので、皆さまから前回のように一つずつご意見いただくというより、実際に見ていただき、「もう少しこうした方が良いじゃないか」や、「これでもう全然バッヂじゃないか」など、そういったところを大まかにいただきつつ、（前回ご欠席で）多分初見だと思います高田さまと、大城さま、あと、鈴木（勇）さまも初めてかと思いますので、（サンプルの冊子は）まだ回っている途中ですが、まずは大城さまから感じられたことや、単純なご意見でも構わないので、いかがでしょうか。

大城委員

ちょっとバラエティがあって、雑誌風でもあって、（ページごとに）印象が変わるので読み飽きないので、良いのではないかと思いました。あと、この（地図で感じる歩きたくなる川崎の）地図がダウンロードできると良いかなと思います。

浅井委員

はい、何とかできるようにします。

事務局（片岡）

ありがとうございます。ちなみに今まさに見ていただいているところですけれど、高田さま、いかがでしょうか。

高田委員

とてもわかりやすくて、良いなと思いました。

事務局（片岡）

ありがとうございます。ポジティブな面でも「ここの部分は周りにイチオシで伝えたいな」とか、ネガティブな面ももちろんですが、何かワンポイントとして、伝えたかったところは何かございますか。

高田委員

区ごとの説明があります（編集注　かわさきの定点観測）が、この区の説明というのは流れというか、順番に理由があるのでしょうか？

事務局（片岡）

この区の順番というのは単純に（決めているのですか）。

事務局（渡部）

一応、南から順番になっているものです。

高田委員

並び順にもストーリー性を持たせることができると良いかなと思います。

事務局（片岡）

確かに何かしらそこにストーリーがあると、良いかもしないですね。

鈴木（勇）委員

南から北というので、なんとなく単純に見えるわけなのですが、川崎市の市域が広がっていく順番というのは概ねこの順番ですから、これで良いのではないでしょか。

事務局（片岡）

なるほど。ちなみに今はどういう順番ですか。

事務局（渡部）

川崎区、幸区、中原区、高津区、宮前区、多摩区、麻生区の順です。

事務局（片岡）

順番的には良さそうですかね。

鈴木（勇）委員

厳密には単純に並べられないところもあるのですが。概ねそのような順番で市域は広がってきましたから、歴史のストーリーとしても違和感はないのかなと思います。

事務局（片岡）

歴史的にも良い感じですね。ありがとうございます。鈴木（勇）さまに、まだ見本の冊子が回ってないですよね。1回見ていただいてからの方が良いですね。

その他、まさにこういった、「なぜこうなっていたのだろう」というようなところも含めて、何か気になる点がございましたら、ここはフリートークなので、ぜひ（発言してください）。

嶋田委員

すいません、素朴な疑問ですが、その印刷した冊子の最初の川崎区のページが2つ並んでいたのですが、どうしてでしょうか。

事務局（浅井）

こちらはまだ川崎（区）のページしか作っていないのですが、定点観測としては、「川崎（区）」、「幸（区）」というように並んでいくので、「もう1回来るぞ」というのを分かってもらうため（そういう配置にしていました）。

嶋田委員

どこかのページ（編集注　川崎テーマ史の音楽のページ）は色違いで並んでいたのなぜなのか。

事務局（浅井）

そうですね。こちら（テーマ史のところに）こっちが緑で、こっちが黄色にしていて、ここ（現在お見せしたものは）「音楽」と「音楽」になっているのですけれど、本当は「音楽」と「漫画」とかテーマが変わるのでね。

テーマが変わった時に、緑が黄色になったら、「ああ、テーマが変わったのね」というのを分かりやすくしようとしている意図です。

嶋田委員

分かりました。その色見本というわけではないですね。

事務局（浅井）

はい。どちらにするかとか、そういうことでもないです。

事務局（片岡）

その他にいかがですか。まさに今みたいな、よくよく考えたら、といったところはぜひ、後々に絶対出てくる疑問だと思いますので、いかがでしょうか。

落合委員

川崎市の（行政）区のお話として、例えば川崎区は昔、大師区（という区名の候補）もあったり。（編集注 行政区名の決定にあたり昭和46年10月に区名の一般公募を行った。公募名の中に大師区も多数含まれていた。『新しい川崎の誕生』（昭和48年発行））高津区と宮前区、（多摩区と麻生区）は昔一緒になっていたり、そのような変化も本に入れると良いな（と思います）。

事務局（渡部）

そうですね。今それらしいというのは、その「めくって」のところで、下の方でちょっと変遷的なものは入れさせていただいている。

事務局（片岡）

ちなみに今のお話だと、「大師区（という候補）があったよ」みたいなことが、紙面上が分かってみると、（良いかなということですね）。どうでしょう。でもなかなか気づきにくかった部分というイメージですかね。

一応、変遷としてはこういった形で、まさにおっしゃっていたように一番小さくて、だんだん南ができていったみたいなところがうまく表現できていれば良いかなと思ったのですけれど。

落合委員

僕が小学生の時は、川崎市の市域は全然変わっていなくて、ただ、宮前区（や麻生区）がなかったり、地図の中で見ていたという、そんな話なのですが。

事務局（浅井）

多分、載せるとしたら、この「めくって分かる」の部分に載せる感じですね。

事務局（片岡）

このタイムラインをもうちょっと細かくする。ちょっとそこは難しいです。ありがとうございます。どこまで細かくするか一度検討してみたいと思います。

他はいかがでしょう。

鈴木（ひ）委員

すごく細かいのですが。川崎区のページがあると思うのですが、10ページのところですね。白抜きみたいな文字が先ほど見た時に「塗り忘れかな？」みたいに感じまして。

事務局（片岡）

この「扇島～東扇島」のところですかね。

事務局（浅井）

文字自体の枠だけに色があって、ということですか。

鈴木（ひ）委員

そうですね。あと、（川崎テーマ史の）音楽のところの「川崎の“4オケ”」という記載も白抜きの枠だけなので、単純に見づらいと思います。

事務局（浅井）

わかりました。

鈴木（ひ）委員

そちらの（印刷された）サンプルで見た時に、より感じたのですが。

事務局（片岡）

ありがとうございます。ここは多分、技法の中で、通常の塗られているベタの文字と、縁取りの文字で、協調性とか、もしかしたら単純に塗るっていうよりは、その縁をもうちょっと太くするとか、そういったところで何かしら工夫ができるのかなと思うのですね。

事務局（浅井）

そうですね。真っ白じゃなくて、ちょっと色を入れるとかですかね。

事務局（片岡）

そこは視認性も含めて、しっかり討議をしたいと思います。

ありがとうございます。

鈴木（ひ）委員

まあまあ、好みの問題でもありますし。

事務局（片岡）

いえいえ。

他はいかがでしょう。阿久津さま、いかがですか。いきなりですけれど、原本を見てないから、（ちょっと話しづらいかもしませんが）。

阿久津委員

今の話が、（オンラインの音声で聞いていると）ちょっとどこのことをおっしゃっているのかわからなくて。

事務局（浅井）

今の話は「六郷の渡し」と、「扇島～東扇島」とか、見出しの文字が白抜きに、白抜きというか、枠だけ色がついていて中が白文字になっているのが見づらいのではないかというご指摘でした。

阿久津委員

私もそう思います。

事務局（浅井）

はい、ありがとうございます。

事務局（片岡）

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

ちょうど今（見本の冊子が鈴木（勇）さまのところに来ているので、いかがでしょう）。

鈴木（勇）委員

デザインとして、もうこれで良いじゃないかなと思うのですけれども、細かいことですが、二ヶ領用水のところがあるじゃないですか。小泉次大夫とか工事の絵が、イラストが載っているのですが、これは（小学校の）副読本（かわさき）の絵ですね。このまま（のイラスト）でいくのですか。

事務局（渡部）

いいえ。（今のサンプル本は）あくまでダミーです。

鈴木（勇）委員

新たに描くわけですね。

そのままだと、副読本とあまりイメージが変わらないなと思ったので、どうもありがとうございます。

事務局（片岡）

ありがとうございます。他は特に気になる点は、なさそうですかね。

福森委員

全体の構成がいくつかあると思うのですけれど、今、副読本の話もありましたが、真面目なコンテンツが多いじゃないですか。「激狭」のページが割と、すごく親しみやすいというか、ほっと一息つけるような感じかもしれないですね。

「激狭」のページはもし複数ページあるのだとしたら、散らばらした方が面白いかなと思います。間に挟む感じですね。

事務局（片岡）

簪休めの感じですね。

福森委員

そうですね。

事務局（片岡）

これって、今まとめているのは（どういう意図ですか）

事務局（浅井）

今、一旦、構成案として考えるにあたり固まっていますけれども、テーマ史の間に挟み込む案は編集で一度ディスカッションしたことがあります。

事務局（渡部）

今、お見せしているのは、比較的硬めのテーマがあつたりするのですが、中にはもう少し柔らかいネタもあつたりするので。漫画だったり、皆さま馴染みがあるテーマだったり入れ込んだりするので、そういう意味では、それらが緩衝材になってくれる感じなのかなと思います。もちろん「激狭」の入れる位置に関してはもう一度考えてみます。

事務局（片岡）

「激狭」だけではなく、ちょっと簪休め的なものがポロポロ入っていて、読んでいて堅苦しくなさすぎるというところは、工夫として（検討していきます）。

事務局（渡部）

はい。硬いものが続くと皆さま少しずつ飽きてくる部分も出てくるので、もう少し馴染みのあるコンテンツを入れつつ、設計をしていきます。

中村委員

この流れで言うと、私は説明を聞いているので、なんとなく「激狭」はわかるのですけれど。

「激狭」って急に来たら、うちの子どもはよく分からなかなと思って、これって説明あるのでしたっけ。

事務局（渡部）

特集が始まる頭に扉のページを設けていまして、そこに説明を入れたいな（と思います）。市民の皆さまが考えましたよ。狭い分野のものを掘り下げてみましたよ。という説明を、その扉のページで一度触れて、次のページ以降で巡っていく（形を考えています）。

中村委員

「激狭」という言葉はあるのですか。

事務局（渡部）

造語に近いですね。こちらで作ったオリジナルの文言ですね。そこを理解していただく説明のページは設けたいです。

中村委員

なにかこう、マニアックな川崎の情報みたいなのだとすごい「すっ」とくるのですが。大人だとなんとなく分かるけど、子どもから見ると。「(面積が)狭い?」「川崎ってそんな広くないし」と（見えてしまう）。

事務局（渡部）

そっちの（意味の）方に取られてしまう（可能性があるということですね）。

中村委員

（そうかもしれない）かなって今ちょっとだけ思いました。

事務局（渡部）

そこも誤解がないような形でしっかり説明していきたい（と思います）。

中村委員

（だから）このマークなのだと。まず「このマークってなんだっけ」みたいな（説明があった方が良いと思います）。手のマークのやつで、「狭いっていうこと（を表現したい）なのかな」と思って、なにかマニアックな「（本のこの部分には）ちょっと細かいこと言いますけれど」みたいな感じ（を説明した方が良いですね）。

事務局（片岡）

そうですね。そこは説明ページをしっかり入れていきたいです。

ありがとうございます。後はいかがですか。ちなみに、まだ1度も出てないこの色については特に皆さまはいかがでしょうか。

反町委員

すごいなと思いました。実は似たようなことをワークショップでやったことがあって、これははるかに可愛らしい内容のものしか作れなかったのですが、この人たち（本のデザイナー）が作るところいう表現になるのだな、というのはすごいなと思いました。すごく良いですよね。私は良いと思います。

事務局（片岡）

ありがとうございます。

反町委員

すいませんあと1点。ちょっとすごく基本的なところかもしれないですが、この本に載せる内容って、この制作期間中の川崎にとって、新しい大きな出来事とか、ずっと生まれ続けるじゃないですか。いつまでのものを載せるというか、この期間で切るとか、なにか決まっているのでしたっけ。

事務局（渡部）

そうですね。取材期間なりで切りたいですが、その後も、例えば年表で入れなきやいけないことが増えた。やっぱりギリギリまで（の内容を載せていいみたいです）。

反町委員

ギリギリまでですね。明確に今の段階で決まっているわけではない。

事務局（渡部）

おそらく来年の夏ぐらいか、秋の今ぐらい。ギリギリまで良いかなという感じではあります。

反町委員

わかりました。と言いますのは1点私が関わっているところで、川崎駅東口の音楽の話ですが。東口は「路上ミュージシャンの聖地」と言われていて、いろんな数字などで見ても、もう「日本一」と言って良いぐらいのところになっているのです。

それが今年の7月から登録制（編者注 川崎駅東口駅前広場の指定エリアでの路上演奏について、令和7年8月1日から令和8年3月31日までは試行期間として、登録制とする取組みを実施しています。）になったのですよ。それがニュースとかでも広く取り上げられていて、その運営を、川崎市と一緒にやっているのですけれど、改めて本当にすごいなと（思っています）。

実は、毎日誰かしらスタッフが張り付いて、今のこの時間も、管理というか、見守りをしているのですけれど。関われば関わるほど、本当にすごいなって思っているところで、音楽のまちづくりというところではこの20年の歴史の中でも「特別中の特

別」というぐらいの取り組みなので、私的には、この音楽の部分は、年表に載せて良い出来事だと思ったので。質問してしまいました。失礼しました。

事務局（片岡）

もしかしたら特別市とかのタイミングもあると、やっぱり政策とか、新たにできることだったり、初めてこれを日本でした、といった話題も確実に出てくるのかな、特に川崎においては、本当にそういったことが、常日頃（発生しているわけですね）。良い意味でチャレンジして、失敗したら戻して、チャレンジして、というところが多い市だと思っているので、それはもうギリギリまで、頑張らせていただきたいです。そうしましたら、一旦このデザインについては（他のご意見はなさそうですか）。

望月委員

構成案は（テーマが）9つあって、デザインの方はもうこれで良いのではないかなと思うのですけれども、その構成案の中で、この後の書名にも関わるのかもしれないですが。「川崎」という表記を漢字でしていると、平仮名で表記しているのが混在しています。平仮名の方が柔らかいのかなという気がするのですが「川崎市」となった場合には、これは漢字にせざるを得ないのかなということです。

例えば、「川崎テーマ史」のところの「川崎」を平仮名にするのか、漢字にするのかというところで、その読者層も含めた形での受け取りというのが、柔らかく感じるところが出てくるのかと思うので、その辺りの統一というのは、（ルールを）どこかでとっても良いのかなという気がしました。

事務局（渡部）

今、考えているところとしては、その内容と考えた場合、（内容により）どちらが良いかと判断する形になっているので、混在するにしても「こういう話題はこうしています」といった意図をもって明確にしたいと思います。

事務局（片岡）

この話題は、どの企画をやっていても毎回出てきます。

「川崎」はカタカナ、平仮名、漢字、そして英語がわりといふっていうところなので。ありがとうございます。

ここはある程度はルール決めをしていければと思います。その他、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

そうしましたら、またブラッシュアップをして、皆さんにお褒めの言葉をいただけよう頑張らせていただきます。引き続きよろしくお願ひいたします。

（次第一3） 書名の検討について

事務局（片岡）

続きまして、またご意見を賜るタイミングになるのですが議題2の「書名の検討について」に移らせていただきたいと思います。こちらも、説明は浅井の方から説明させていただきます。

事務局（浅井）

お願いいいたします。遂にきたかというところなのですが、本のタイトルをどのように定めていくかというお話になります。これは振り返りですが、そもそもこの本、川崎市史市制100周年記念版とは、親しみやすく、手に取りやすい「新しいかたちの川崎市史」（川崎の歴史の本）を目指して作ろうということでスタートしております。制作目的とターゲットはこちらの通りで、もう少し目的について掘り下げるとき、川崎市の歴史や文化を知ってもらい次世代につなげるというところを目的にしています。

作り方としては、市民に制作プロセスで関わってもらう、というところを大きく定めています。ターゲットは幅広い世代とするのですけれども、特に若い世代、子育て世代をメインターゲットにしましょうということでやってまいりました。

こうした場合にあたって定めたコンセプトが分かりやすく伝わるもの、制作プロセスの重視、そしてデジタルの活用というところで進めております。

この市民に関わっていただくというところで、本事業では様々なレベル感での市民のご意見を取り入れています。まず1つはアンケートの実施というところで、去年は緑化フェアの会場を中心に、この案件に興味があるかないかに関わらず、偶発的に来場された方々にいろんな意見やアイデアを伺って、構成案を練ってまいりました。

また、この場である編集懇談会も、市民の方々のご意見を取り入れる場として、貴重なご意見をいつも賜っております。

もう1つが、もう少し関わりたい、意見を言いたいのだという積極的な市民の方の声を聞く場面として、ワークショップも設けています。令和6年度には、大人の方を中心に「激狭のテーマ」を挙げていただいたり、この本のキャッチコピーを考えたりするというワークショップを実施いたしました。この夏休みには、小学生記者が実際に歴史的な人物や場所を取材して、その取材成果を本に載せるということで関わってもらうという事業をやってきました。

こちらは、いつも繰り返しになりますけれども、こういった構成案になっているというのが現時点です。

それでは、この本の名前をどう決めていくのでしょうかというところについて、こち

らがプロセスの計画になっておりまして、もうこのプロジェクトが始まってすぐの10月時点から書名に関係のあることというのは動き始めていまして、まず10月、11月にはその市民アンケートで読みたい本の内容を聞きました。1月、2月の市民ワークショップでは、「激狭テーマ史」の内容を考えるとともに、書名案のベースとなるアイデアをいただきました。

そして令和7年度に入りましたからは、4月から7月に、ウェブアンケートで「こういう本を作っているのですが、タイトルはどんなものが良いですか」というご意見を広く聞く事業を実施しまして、今、書名素案というものが出来上がっているところです。

お手元に、このメインの資料とは別に表形式になった東がありますけれども、こちらがこの4月から7月の市民公募でいただいた原案であり、497件の応募を市民の方からいただきました。こちらがその書名の検討についての、アイデアがどういったものが集まっているかをまとめたものです。

また、こちらは令和6年度の市民ワークショップで、その時には「本のキャッチコピーを考えてください」というところで出していただいたのですが、書名のアイデアの源泉となるものとして、こちらは捉えておりまして、「155万通りの愛の街」とか、「『川崎って何だ』という疑問を投げかける（形式にする）のはどうか」とか、「『つながろう川崎』というのはどうか」とか、いろいろなご意見をいただきました。

こちらが、今、リストで見ていただいている。市民公募でいただいた497件です。手法としては、こういったチラシやイベントアプリとか、ホームページからの呼びかけとか、SNSからも広がって、応募をいただきました。497件もあるので、1つ1つ見ていただくと大変なので、こちらも傾向を分析しまして、使用頻度の高いキーワードはこのようなものだった。「川崎」って入れますよねとか、「歴史」とか「100年」とかを入れている方が多かったりして、順位をつけると、このような傾向が見えてきました。

また書名とともに、その書名に込める想いとか「アイデアとして、どうしてこういう書名が良いと思うか」という理由も書いていただいたので、そちらを見ると、「街」とか「物語」を入れている方は、やはり川崎への愛着や誇りを表現したいと思っていらっしゃったり。「知る」とか、知つてみると面白いという興味関心、楽しさや喜びを表現したいという想いであったり、また「未来」をイメージさせるような言葉を入れてらっしゃる方も多くいらっしゃいました。

以上を踏まえ、事務局で書名素案として主題 6 パターン、副題 6 パターンという形でまとめさせていただいたというところが現状になります。

「この後どうするの」というところですが、今日、この（主題）6 案、（副題）6 案に対して、懇談会委員の皆さんから、お好みベースで、フィーリングで構わないの で、こういうのが良いか、今見ているデザインとか構成案に合っているのはこれでは ないか、というご意見をいただいて、そのご意見を踏まえて、3 案程度に絞って、催 事会場で「この本のタイトルとして 3 つの候補があるのですが、どれが良いですか」 というアンケートを、今度の催事会場にやってこられるお子さまからシニアの方ま で、広くシールアンケートを実施しようというところを考えております。

こちらが本日お願ひしたいことですが、書名素案を 3 案程度にしぶり、市民を対象 にしたアンケート投票を実施しますので、この前のページでお示しした書名素案に 対して、どの書名案がふさわしい、もしくは好きとお感じになるか、感想ですとか、そ れを選ばれる理由を 1 人ずつお聞きできたらと思います。よろしくお願ひします。

事務局（片岡）

ありがとうございます。そうしましたら、これは投票とかそういうことではなく、 単純に様々で、6 つあるところの中で見てもらい、「私、ちょっとこれ好きかも」と か、「好きな理由として、こんなところに紐づいているか」というようなことを自由 にご意見をいただければと思いますが、いかがでしょう。

鈴木（勇）委員

ちょっと質問させていただいてよろしいでしょうか。ここで 6 つの案が 1 から 6 ま で示されていますが、これは事務局として順位をつけているということなのですか。

事務局（浅井）

いえ、順不同です。また、この正と副の組み合わせも、（同じ 1 番目の）「カワサキ ノキセキ」と「155 万通りのストーリー」っていうことに限らず、主題は「カワサキ ノキセキ」と、副題は「わたしたちがつなぐ川崎の歴史」などでも良いというところ で、主と副のミクスチャーもオッケーです。

事務局（片岡）

最初もらった時は、一応これが横に並んでいるので、それをアイデアとして捉えて いただいた上で、皆さまの意見を踏まえてブラッシュアップしていこうと思います。 そうですので「これが好きです」とか、「もう少しこれをこうやつたら良いと思うの に」というような（ご意見をいただければと思います）。

今回「カワサキノキセキ」を、必ずそのまま使うということではなく、変更は可能

だと思っていますので、お示ししているものに対して純粹にご意見をいただければと思います。

嶋田委員

主題というのが、例えばこれ（編集注 新修福岡市史シリーズ3）であると「ふくおか歴史探検隊」というのが、「カワサキノキセキ」って（文字が）大きく入るという感じですね。書名が「主題」のことですね。

事務局（浅井）

そうですね。役割としては、主題はインパクトであったり、目を引きつける役割であったり、バンと大きく出て、そして副題の方でこの本の性質であるとかを補足するようなものになります。

事務局（片岡）

福岡（市史）がまさにそうですが、めちゃくちゃシンプルです。下が副題ですね。

鈴木（勇）委員

でもそのタイトルだと、小学生の副読本みたいな感じがどうしてもするので。

事務局（片岡）

そうですので、そういったところを踏まえて、まさに先ほどの（配付資料の）下にあった構成とか中身と照らし合わせた時に、どういったタイトルが良いのか、（を考えていただけたらと思います）。これは場合によっては、副題がないという考え方もあるのですか。

事務局（浅井）

いらないのでは、と言わいたら、（副題なしの可能性もあります。）

事務局（片岡）

いらないという意見が多い場合は、それも可能性としてゼロではないです。

そのようなところも踏まえ、本当にご意見をいただきたいです。正解はないので、単純にこれがと思う意見をひとまず発言していただければ、ありがたいと思います。

嶋田委員

ちなみに今、表紙案っていうのは全然考えてないですね。

事務局（浅井）

はい、そうです。

嶋田委員

むしろタイトルに合わせて表紙案を考えていく方向という感じですね。

事務局（浅井）

はい。今年度末で書名を決定して、来年度をかけてその書名を彩るといいますか、それを置く表紙デザインを考えていきます。

鈴木（勇）委員

個人的には、このメインタイトルは1番目の「カワサキノキセキ」というのが引かれるというところでしょうか。

というのは、やはりこれは「川崎市の歴史の本」なのですが、やはり「川崎市史」とか「川崎史」とか言うとやはりちょっと硬い感じがしますし。そうしますと、なんとなく。かといって「カワレキ」ではなんなのかよく分からない（書名だと思います）。

それで「キセキ」はおそらく（意味を）2つかけているのだろうと思うのですが、漢字の「車」に「九」（「軌」）の方であると、一応、来歴をたどるということが言える（と思います）。

でも「155万通りのストーリー」は、これはこれで良いと思うのですけれども、これであると歴史を扱った本かどうかがよく分からないので。

個人的には、（主題と副題の組み合わせは）「カワサキノキセキ」と、サブタイトルは「わたしたちがつなぐ川崎の歴史」にすると、これが川崎の歴史の本だということが分かるのかと、ちょっと感想ですが、思いました。

事務局（片岡）

やはり「川崎」というワードがしっかりと、明快に入っている方がわかりやすいというところが前提でありながら、それをどう見せていくのかというところですね。

ちなみにそうなった時に、例えば「カワサキノキセキ」と「カワサキってなに？」を比較すると、あえてこちら側（「カワサキノキセキ」）の方が良いと思っている理由は、やっぱ「キセキ」をうまくもじっているあたりですかね。

鈴木（勇）委員

といったことと、「カワサキってなに？」だけだと、時間軸がないのですよね。

つまり、この場合の「キセキ」を入れると、「奇跡」の場合はミラクルのこともあるわけですけれど、この「車」偏の「軌跡」だとすると、その時間軸を入れているということは、そっちの方が良いのかなと思ったところです。

事務局（片岡）

なるほど、確かに。ありがとうございます。

嶋田委員

「カワサキノキセキ」は良いですが、そうであるとすると、これは全部カタカナ表記ですか。視認性的にどこかで挫折してしまうのではないかと（思います）。

例えば、「ノ」の文字が平仮名などでなければ、多分ぱっと（目に）入ってきた時に、（頭に）入ってこないですね。もう少し短いのであれば、全部カタカナでも良いかと思いますが、カタカナがこれだけ続くのはちょっと厳しいかと思います。

事務局（浅井）

あとは、カタカナなのですがよくあるのは「ノ」だけを小さめにしたり、丸で囲まれていたり（する手法もあります）。

嶋田委員

そうですね。デザイン的にも同じものにされてしまうと、ちょっと分からぬです。

事務局（片岡）

何にせよ、大事に伝えたいところはしっかりとカタカナでちゃんと見せていくことです。

まさに、そのようなアイデアを多くいただけすると非常に嬉しいです。すごく良い流れです。

中村委員

すいません。主題は私も「カワサキノキセキ」か、「ナナイロノマチ」も可愛いなと思っていたのですが、歴史全体的に言うと、「ナナイロ」って言わなくても良いのかなと思いつつ、すいません。

タイトル（主題）は一旦置いておいて。副題が、何かもう少し伝わるもののが良いなとちょっと思った時に、この回答番号 212 番の「かわさき 100 年の記憶」が素敵だと実は思いまして、副題は別案を提示させていただきました。

（この本には）実際は 100 年以上前の歴史も少し載っているのかなとは思うのですが、せっかく市制 100 周年の川崎市史を皆さまと作っているので、「かわさき 100 年の記憶」というのが、すごい、サブタイトルとして素敵だなと思いました。

あとは副題として、一番初めの「155 万通りのストーリー」は、現在は、Now（の状況）で、もしかしたらこの国勢調査で色々変わるかもしれないのですけれど。

（それ以外の副題は）大体一緒みたいな感じはなんとなくしていて、こっち（「かわさき 100 年の記憶」）が伝わりやすいかなと思っています。

嶋田委員

今、言っていただいた（かわさき 100 年の記憶）は「カワサキノキセキ」にも合うのではないですか。

中村委員

そうですよね。「キセキ」のところと、「記憶」というところが。

事務局（片岡）

めちゃくちゃテレビ番組ですね。

嶋田委員

何かミニ番組で、9 時 55 分からの 5 分間番組（の感じがします）。

事務局（浅井）

何かありますね。「ナナイロ」とかもありますね。

事務局（片岡）

ちなみに、こちらの（市民公募の）書名案のところから持ってくるのは、ありますか？

事務局（堀切）

はい、あります。

中村委員

これに決まったら、この（応募していただいた）方に「使いました」というのを伝えるのですか。

事務局（堀切）

ホームページで発表します。個別にお伝えすることは考えていないです。

事務局（浅井）

この方が覚えてくださっていたら、自分で（考えた書名が選ばれたということが分かります）。

事務局（片岡）

ちなみに、こうなった時にまさに望月さまが先ほどおっしゃっていただいた「カタカナと平仮名の混ざり問題」が生じてくると思ったのですが、ただこうなると、こちら（主題のところ）はカタカナで良いけれど、こちら（副題のところ）は平仮名が良い、という気がしたのですよ。ここはどう思われますか。

嶋田委員

例えば、今までにある固有名詞の川崎に「市」がつく場合とか、「川崎区」とか、「川崎何々」は合わせたり、漢字にしたりするのですが、一人称的な「カワサキ」と

いうのをカタカナにするとか。

その「川崎」という言葉が、「川崎市」なのか、「川崎区」なのかよく分からないと
いうか、そういうのもあったりするので、「川崎区」は漢字なのだろうけれど、「川崎
市」全体の場合はちょっと変えてても良いかなと思います。

事務局（片岡）

そうなると、意外とちゃんとしたワードのところに、漢字を入れるというレギュレ
ーションで管理するのであれば、平仮名より漢字の方が硬くても良いのかな。

でも、こうなると、「小学生が読めるのだっけ」みたいな（ことも考えないといけ
ないですね）。

副題は、212番の「かわさき 100 年の記憶」が新しく出てきたので、ありがとうございます
。他にはいかがでしょうか。

高田委員

私は1番目の「川崎市」を漢字にして、「カワサキノキセキ」が良いかな。

「川崎市」を漢字にして、「の」を平仮名にして、（そのほかの文字は）カタカナに
する（編集注 「川崎市のキセキ」）。

福岡市史（の書名の形式）をちょっと真似してしまうのですが、やはり「川崎市
のことだよ」というのは、きちんとした方が良いのかなと思いました。

開いてみて平仮名とかは良いと思いました。

事務局（片岡）

ここ（「カワサキノキセキ」）に「市」を入れて、漢字にするということですか。

高田委員

そうですね。先程おっしゃったように、「川崎区」なのか、「市」なのか何なのかが
分からないですし、そこはきちんとしても良いのかな。

副題を少し柔らかくにするのか、ちょっと迷っています。

「みんな」とか「わたしたち」を入れて「みんなの」という意味合いが入っても良
いと思います。「みんな」とか「わたしたち」が平仮名で入ると、柔らかくなるかと
思いました。

あと、5つ目の副題の「市民とつむぐ川崎の歴史の本」は、「つむぐ」という言葉は
あまり頻繁には使わないかと、少し特別な表現である気がします。

先程、お話をあったテレビ局の題名のような感じがするので、そこで最初からつま
ずかない方が良く、少し分わかりやすい言葉の方が良いと思います。

事務局（片岡）

ありがとうございます。

事務局（浅井）

そうですね。「つむぐ」という言葉は私たちが慣れ過ぎていて、市史を作っている人たちはよく使うのですが、その一般的な感覚をいただけたのは、大変ありがとうございます。

嶋田委員

（ここの「つむぐ」というのは）「編集する」という意味ですか。市民と一緒に作るという意味ですか。

事務局（浅井）

そうです。たくさんあるものを集めて、何かを一つにしていくということで、歴史物の制作場面では使いがちですが。なるほど、一般的ではないのではというは（教えていただき）、ありがとうございます。

事務局（片岡）

もっと分かりやすく「市民と作った」とか、「共に考えた」（などの表現にした方が良いかもしれませんですね）。

嶋田委員

そうすると、もしそれが入るのでしたら「今まで何をやった」というページがあった方が良いですね。編集懇談会を開いたとか、子ども記者が取材をしたなど。

事務局（浅井）

そうですね、メイキングをまとめたページですとか。

高田委員

制作してきた側の（話題）が、本を開いてぱっと出てくるのは、結構難しい時があります。こちら側（制作している側）の3年間と、（読者が）本を開いて受け止めることと、温度の違いがどうしても出てしまうと思いますが、そこは少し難しいかもしれません。

事務局（片岡）

我々の願望も入っております。これだけ頑張ったのだからと。

まさにそういった「ワード的に、専門的にはそうだけれど、それって伝わるのですか」というような視点は、本当にいただきたいご意見です。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

鈴木（ひ）委員

タイトルはやはり保証じゃないですか。1つはニックネームではないのですが、ぱっと言える要素はあった方が良いかなと思いました。

「『ほにやらら』読んだ？」っていうふうに言いやすかったり。主題と副題を使い分けるのであれば、主題はインパクトがあると良いなと思います。

今、資料をさっと見ただけなのですが、例えば（市民公募による書名案の）484番「まるっと川崎」とか、473番「カワサキたまてばこ」とか、こちら（市民公募による書名案）にも結構良いものがいっぱいあると思いました。

あと、もう1つはダジャレ業界の視点でも紹介したいです。

ダジャレは遊び心があるし、インパクトもあるので入れたいなと（思います）。この中では、「キセキ」は（意味が）かかっているので良いかと思いました。他には、ちらっと見ていると、例えば367番に「“かわ”りゆく“さき”をみよう」というので、その「変わりゆく先を見よ」、それで「川崎」みたいな、そういう遊び心もあって良いかなと思います。

あとは442番「なんなく（7区）カワサキ」は、「7区」にかけて、難なく川崎のこととを知る。これは私が投稿しました。

中村委員

なにか（今の6案に加えて）7番目ぐらいに選べるように（したら良いと思います）。私には、ダジャレが言いたくて、言いたくて、しょうがない子どもがいるのですが、言える人をすごく尊敬しています。子どもにとって憧れの的です。

鈴木（ひ）委員

（タイトルは）短くて、やはり「『まるっと川崎』って読んだ？」みたいで、言いやすいではないですか。「『カワサキノキセキ』って読んだ？」というよりは、「まるっと川崎」であると、なにか親しみやすい印象の方が読んでもらいやすいのかと、コミュニケーションが取りやすいのかと思います。

あとは、そろそろダジャレが入ると遊び心があって、面白いかなと思いました。

嶋田委員

「カワサキたまてばこ」ですと、要約して「かわたま」になっても良いですね。

鈴木（ひ）委員

そうですね。それでサブタイトルで川崎の歴史というのは補えるので、その組み合せがあってもよかったです。

事務局（片岡）

ちなみに、この中だと「カワレキ」などが近いのでしょうか。

鈴木（ひ）委員

この（6案の）中であると、そうですね。

嶋田委員

NHKの番組名でありそうですね。

事務局（片岡）

確かにここは難しいですよね。おっしゃる通り名前ってすごく大事です。

どうでも良い情報だと思うのですが、流行るものって大体「パピペペ」が入っているのです。

お菓子でも「ポッキー」、「パピコ」とか、大体「パピペペ」が入っているものが覚えてもらいやすいというのはあるので。ただ、ここにまさか「パピペペ」とか入るわけにはいかないですから。確かに呼びやすい、口に出したくなる名前みたいなところは視点としてあつたら面白いのかな（と思います）。

「カワレキ」を口に出したくなるとしたら（どうでしょうかね）。でも先の「カワサキノキセキ」を「の」にするだけで、こんなに良くなったというのが1個あると、他にも少しアレンジすると、人が絶対口に出したくなるものがあると良いと（思うのですが）。

嶋田委員

ネーミングとかの話になると、今入っている書名案の中に、濁音が入っているものがないかとかの視点になつたりするのですが。「か」行や「ら」行は鋭いですよね。あとは先ほど「パピペペ」の発音の話もありましたが。あとは濁音系とか。

「カワサキノキセキ」の「の」って、ジブリの「の」と同じで、ジブリの映画のタイトルにはみんな「の」が入ります。「の」って、ちょっと落ち着く感じがあるのですよね。

鈴木（ひ）委員

「カワレキ」の方は、「カイワレ」とか（を連想したり）。なにか「すっ」と入ってこないのでよね。

反町委員

（「カワレキ」は意味が）ちょっと分からぬですよね。

やはり4文字とか、キャッチャーであることはすごく大事だと思うのですが、ちょっと意味がわからぬすぎると、入ってこないし、あと、今おっしゃられたように、違う

ものが一瞬でも浮かぶのが、あまり良くないかなというか、もっと良い形ができるかなというところで（検討が必要です）。

私も、この 6 つあげていただいた中では、やはり「カワサキノキセキ」が良いと思いました。その理由が、この 6 つの中で言うと、1 番目の「カワサキノキセキ」というのは、その「軌跡」と「奇跡」がかかっていると思うのですが、確実に前向きな印象、良いイメージを持つ人が大半だと思います。

一方、2 番目の「カワサキってなに？」というのは、フラットすぎるというか、それだけですごく良い印象、前向きな印象で受け取ってもらえるとは限らないのかなと思います。

ただ、これは副題の方でフォローできたらなと思ったのは、やはり「川崎市」というワードを「市」まで入れるのも大事だなと思って、先ほど「川崎市のキセキ」という案も出て、それも良いなと思ったのですが、なにか「カワサキノキセキ」だと 8 文字で、「川崎市のキセキ」だと 9 文字でして。8 文字の方がちょっと言いやすいかなと思いました。

その中から選ぶとすると、やはり印象として前向きな気持ちになる言葉というと、先ほどあげていただいた「カワサキたまてばこ」、略して「かわたま」とかも可愛い感じとか、その「たまてばこ」っていうワードで、マイナスな印象持つ人も普通はないと思うので、他の候補の中にもまだまだ良いのがありそうだなと思って、見させていただいています。一旦以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。

阿久津さま、いかがでしょうか。ちょっとオンラインで見えにくいとは思うのですが、もし見える範囲で何かございましたら、ご意見を賜れればと思います。

阿久津委員

私も「カワサキノキセキ」が良いなと思ったのですが、理由として分かりやすいのと、語呂が良いというところと、やはり 100 年後に残していきたいということで、良いなと思いました。

ただし、これを考えた人は多分今の流行り的に全部カタカナが良いのかなと思って、途中「の」が平仮名でも良いのかなと思ったのですが、全部カタカナで、間を開けるとか、色を変えるとかしても面白いのかなと思いました。

事務局（片岡）

なるほど。色を変えたり、つまり視覚的な工夫ということですね。ありがとうございます。

います。

阿久津委員

あと、「知ってる？知ってた？かわさき」とかも、ちょっと問いかける感じが可愛いかなと思ったのですが、ちょっと長すぎるので、どうなのかなというところです。

あと、主題と副題の組み合わせはすごく大事だなと思って、例えば「カワレキ」になった時に、「カワレキ」だけだと、やっぱりわかりづらいので、どれだけ副題で本に興味を持ってもらうか、というところも大事かなと思いました。

事務局（片岡）

なるほど。確かに、今おっしゃっていただいたのは、「カワレキ」というキャッチーなところを使いつつ、副題でその不足しているところをカバーすれば、キャッチーなのも、説明不足なのも解消できるのではないかという意味合いでですね。

阿久津委員

はい、そうです。

事務局（片岡）

ちなみにその副題、仮に「これが良いじゃないか」というと、例えば「カワレキ」の下に載せるとしたら、どれが良いとかってあったりしますか。

阿久津委員

私は「155万通りのストーリー」というのが、良いな、グッとくるなと思います。
「155万通りもあるのだ」みたいな（感じがします）。

事務局（片岡）

ありがとうございます。

嶋田委員

3番目の「知ってる？知ってた？かわさき」が先ほどから出ているのですが、デザイン的なことも含めてなのですが、「知ってる？知ってた？」が1行目で、「かわさき」が2行目で、「かわさき」の幅に合わせて「知ってる？知ってた？」が、小さく入って、「かわさき」の「き」の字を、「記憶」とかの「記」にすると。

そうすると、「かわさき」のところにアクセントが付くのかな（と思います）。

事務局（片岡）

この「記」は意味を2つかけているのですか。

嶋田委員

そうですね。「記録」の「記」とか、「記憶」の「記」とか、「古事記」とか。

事務局（浅井）

「かわさ記」や「カワサ記」は、497件の市民公募による書名案の中にもあったと思います。

事務局（片岡）

個人的に227番の「好きです♡愛の街 川崎」がめっちゃ可愛いなと思います。

なるほど。確かに「希望」とかもあるのかな。ありがとうございます。確かに、このような表記の仕方で一つ変えるということですね。

他に皆さまいかがでしょうか。

望月委員

6つの中では、私も「カワサキノキセキ」が1番「すっ」と入りやすいかなと思いました。

もう1つは、やっぱり本を作るわけなので、本というのは後に残ります。

今の人たちに読んでもらうというのが、一番大切なことですが、100年後に「100年前、川崎の市制100年の時に、これを作った」ということが残るので、それも意識しながら。かつ、博物館の展覧会ですと「メインタイトル何にするの、サブタイトルは何にするの」ということを、いつも頭ひねりながら、みんなで考えているのですが。メインタイトルはもうストレートで、そのままで。サブ（タイトル）でそこを補うというのが一般的な考え方なのかなというふうに思っています。

今出ている6つの中では、「カワサキノキセキ」というのが一番ストレートに出ているのでは、という気がします。

それで、先ほど「つむぐ」の問題が出ていましたが、私も結構「つむぐ」が好きです。やはり歴史というのは、今回のこの本は「市民がつむいだ」ということもあります、歴史というものは「過去の人たちがつむいできた足跡である」というところがあるので、そこで軌跡とも重なる部分も出てくるのかなという気がしたので、結構、個人的には「つむぐ」、「つむがれた」とか（良いのではないかと思います）。確かになかなか一般的ではないのかもしれないのですが。

漢字で書くとなんなんだと思うのですが、平仮名だと少し分かりやすいのかなという気がしました。

事務局（片岡）

ありがとうございます。本当に難しいですよね。

ちなみに今お話があった、博物館でタイトルを考えるというのは、ものすごく大事なことだと思うのです。どんな層にうけるかも、そこでやはり幅広く呼ばなきゃいけ

ないところもあると思うのですが、「メイン、ストレート。サブ、補う。」というのは割とセオリーのようなものでしょうか。

望月委員

セオリーですね。

もっと引きつけるのでしたら、何かキャッチャーな要素が必要だということで、キャッチャーを考えることもあるのですけれど。

事務局（浅井）

「つむぎ」の援護じゃないのですけれど、実は「つむぎちゃん」という名前が2024年の「女の子の名前ランキング」の1位になったのです。「つむぎ」って、結構市民権を得てきたのかと思います。

事務局（片岡）

余談ですが「つむぎちゃん」という名前は、「けいおん！」とかのアニメにも出てきましたよね。

事務局（浅井）

そういうところから、きてるかもしれないですね。

事務局（渡部）

なにか今どきっぽい名前ですね。

高田委員

「つむぐ」を使う場合には、今後の統一感がいると思います。川崎市が今後100年はキーワードとして使っていくか。

その一体感というか。100周年の時も含め、川崎市はいろんな冊子を発行されています。「(この言葉は)いろいろなところで使っていきます」という統一感があれば、良いかなと思います。

事務局（浅井）

川崎っぽくないという感じに見えますか。

高田委員

そうですね。いろんな書面などで、キーワードとして使う程度であれば、良いかなと思います。

事務局（片岡）

あと「つむぐ」というものの自体を、もう少し、表紙のデザインになってしまいますが、視覚的にわかりやすく（表現する工夫が必要ですね）。なんか「歴史の様々なテキストが紡がれて、この本ができたのだよ」みたいのが、視覚的に分かるみたい

なところの工夫で、1つ解消していくとか、何にせよ、ちゃんと伝えるってところですよね。

今おっしゃっていた、ストレートで伝えつつサブで補い、それでもさらにキャッチーを入れる。最終的にはやはり視覚的にも「ちゃんと見せてわかるように」というところが入ってくるのかなと思います。最終的に、そこは決めの問題でありながら、難しいですね。言葉としては良い言葉なので、どう伝えるのかというところもしっかりと考えていくべきだと思います。

ありがとうございます。あと、いかがですか。

大城委員

「カワサキノキセキ」は私もそれが一番好きです。皆さまの議論もすごく気に入っていて、1つ言ってない、皆さまからの話題に出てきてないことですが、「カワレキ」という言葉なのですが、「川」がつく土地っていっぱいあるはずなのですよ。やはり川崎の独自のものにならないではないかなと思うので、そこが気になりました。

事務局（片岡）

確かに、検索するとめちゃくちゃ「カワレキ」とか、いろんなものが出てきちゃうと（どうでしょうか）。「カワレキ」という別の言葉がいっぱいありそうですね。

「カワサキノキセキ」がもうすでに書名としてあったら、ショックですよね。

事務局（浅井）

大丈夫です。調べています。

事務局（片岡）

一応全部ないですね。

事務局（浅井）

はい。完全一致の書名はないです。

事務局（片岡）

「川崎はひとつだった！」は、あまり人気がないようですが大丈夫でしょうか。

鈴木（勇）委員

川崎の歴史は、今までの話の中でも出ているのですが、割と多様性みたいなこと（が特徴で）、これには人の多様性もあるし、地域の多様性というのもあるのですが、「ひとつだった」とそれがあまり弱いのではないかと思います。

嶋田委員

今、気づいたのですけれど、「カワレキ」って、でも「川崎」にちょっと引っ掛けているということですかね。「れ」の字をデザイン的に「さ」と「れ」をうまく（表

現できればと思います)。

事務局（片岡）

1つ難しいのは、必ずしもデザイン文字が使えるシーンだけで、その広報ができるわけではないというケースは結構あるのですよ。

「書籍が販売されました」とか、リリースが掲載されるなどになると、どうしてもやはり活字で出てきてしまうと考えると、やはりこの文字自体にインパクトをしっかりと持たせた方が良いのかなと思います。

事務局（浅井）

アイデンティティが必要です。

事務局（片岡）

確かに、この視点から「ひとつだった」と言われても、多様性とか今後進めていくというところでいうと、どうですかね。

事務局（浅井）

それは意外性を狙ったという意図で出された経緯がありまして。みんなバラバラだと思っているだろうけれど、実はひとつだった（ということを表現したいのです）。

事務局（片岡）

他、皆さまはいかがですか。

落合委員

私はもう皆さまの意見で良いなと思っていた、そういうところはあまりセンスもないで、良いかなと思ったのですが。

初め思ったのは「カワレキ」でした。ただそれだけですと、全然分からぬところがあったので、鈴木（勇）委員などの話を聞いていて、確かに「カワサキノキセキ」というのは良いなと思います。

今回のこの本の中身を見ていますと、やはり「へー」って思うところが非常に多いし、川崎って、ある意味では良いところを結構取り上げている部分があって、すごくそういう点で浮き彫りになったということでは、僕は「キセキ」の部分とか、あるいは「たまたばこ」みたいな（書名が良いかなと思います）。そういうものが良いのですが、ただ「たまたばこ」はやはり昭和のイメージかなと思います。「キセキ」ってそのように皆さまが考えるのだという、すごく勉強になりました。

これでも良いと思うのですけれど、ちょっと副題で気になったのが、表題で「川崎」があって、副題でも「川崎」あるのが、ちょっとしつこいかなと思うのが1つと、本屋さんに置かれるしたら、いろんなところに置かれるにしても、郷土史コー

ナーなどのところに置かれる時に、「カワサキノキセキ」だけで手に取る人というのと、実際に川崎の歴史について知りたい人とのギャップというのがあるのでは、というところが少し気になったところであります。ただ、タイトルとして、読んでみると、タイトルが理解できるという部分は良いのかなと思いました。

事務局（片岡）

ありがとうございます。

今、手に取るという話題が出ていたと思います。確かに、今はもう皆さんには本の内容を知っていたらいいで、様々な議論を重ねた上で「このタイトルが良いじゃないか」、「親和性も近いからね」となっているのですが、ぱっと本屋に行った時に手に取るでしょうか。

先ほど鈴木（ひ）さまがおっしゃっていただいたように、いかに口に出したい名前になっているか、（口に出したい名前を）作っていく必要性があるのかなと思うのですが、仮にこの「カワサキノキセキ」に一旦フォーカスを当てた時に、これを手に取るか取らないかというと、いかがでしょうか。

取るのであれば、別に良いと思いますが、さらに取らせるためには、「このようしたら、より良いのではないか」というのがあったりすると良いのですが、いかがでしょうか。

事務局（浅井）

そこは表紙デザインで頑張れっていうことですかね。

中村委員

それか、帯（も大事ですね）。

事務局（片岡）

確かに購入する時、帯は強いですよね。ここは「デザイン」と「帯」ですね。

大体、帯で全然売上が変わりますから。

事務局（浅井）

今度の催事の時に、オンラインアンケートでは、広報に関する市民のアイデアを集めようとしているのですが、クエスチョンの例として、「この人が帯を書いていたら、どうでしょうか」というような設問も設けようと思っています。

鈴木（勇）委員

ちなみに、想定の発行部数はどれぐらいのボリュームを考えているのですか。

事務局（浅井）

今のところでいうと3,000部と想定しています。

中村委員

初回限定とかありますか。

事務局（浅井）

今後検討です。

事務局（片岡）

二ヶ領用水の水とか。

福森さまはご発言いかがでしょうか。

福森委員

僕は、鈴木（ひ）委員の「なんなく（7区）カワサキ」一択です（一同笑い。）

いえ、僕も最初「カワサキノキセキ」が良いと思ったのですが、皆さんも良いなどいうので「カワサキノキセキ」か、でも「カワサキノキセキ」だと、サブタイトル的なところが難しいかなと思ったりもしました。

「キセキ」と「歴史」ってそぐうかなと思ったりもしたので、主題と副題の関係性というか、関連がある方が良いから、副題が難しいな。

かといって、副題がまた「カワサキノキセキ」だと、くどいなと思って、副題との関係がちょっと悩みどころかなと思いました。

事務局（片岡）

確かに。ありがとうございます。

今までいろいろなご意見いただいたので、方程式じゃないですが、「主題がストレートで、副題を補う」とか、キャッチャーとかの部分を踏襲してみつつ、ブラッシュアップをして、「これだったら絶対買いたくなる」という案を3つぐらいに絞って、それを元にアンケートを取っていきたいなと思います。

他、よろしいですかね。そうしましたら、一旦こちらをもとにブラッシュアップさせていただきたいと思います。

（次第一4） 総括／次回案内

事務局（片岡）

そうしましたら、本日の議題としては以上ですが、この後、今後についてお話をさせていただきます。

事務局（浅井）

こちらが、令和7年度の市民アンケートで、先の（書名の）3案を持っていく先として今計画しております。

10月12日の「あさお区民まつり」を皮切りに、1月16日までの「宮前区民祭」に出店を検討しております。今、「高津キラリフェス」はまだ検討途中ですが、7区全てにお邪魔して、やることは書名案3案のシール投票と、オンラインでのウェブアンケートで本の宣伝や広報に関するアイデアをいただくというのを予定しております。

前回、催事会場でのアイデアをたくさんいただきまして、ありがとうございます。検討した結果、やはりガラポンのくじ引きでいってみようというところが今の事務局の考えであります。

景品については、引き続き検討中ですが、日も迫っていますので、決めて実施していくきます。どちらかのところにお立ち寄りいただければ嬉しいです。ありがとうございます。

次の第7回の編集懇談会ですが、12月10日、11日、12日の3日間を候補日として、引き続きご予定をお伺いいたしますので、その中で決めさせていただきたいなと思っています。

年内の回については、ここで取ったアンケートから得られた様々なアイデアですか、書名投票の結果をご報告したいと思っております。

事務局（片岡）

ありがとうございます。

そうしましたら、本日はこれにて終了させていただきます。引き続きよろしくお願ひいたします。

以上